

「ユダヤ人と律法の関係」

2018年08月30日

ローマの信徒への手紙 2 章 17 節～29 節 ところで、あなたはユダヤ人と名乗り、律法に頼り、神を誇りとし、その御心を知り、律法によって教えられて何をなすべきかをわきまえています。また、律法の中に、知識と真理が具体的に示されていると考え、盲人の案内者、闇の中にいる者の光、無知な者の導き手、未熟な者の教師であると自負しています。それならば、あなたは他人には教えながら、自分には教えないのですか。「盗むな」と説きながら、盗むのですか。「姦淫するな」と言いながら、姦淫を行うのですか。偶像を忌み嫌いながら、神殿を荒らすのですか。あなたは律法を誇りとしながら、律法を破って神を侮っている。「あなたたちのせいで、神の名は異邦人の中で汚されている」と書いてあるとおりです。あなたが受けた割礼も、律法を守ればこそ意味があり、律法を破れば、それは割礼を受けていないのと同じです。だから、割礼を受けていない者が、律法の要求を実行すれば、割礼を受けていなくても、受けた者と見なされるのではないのですか。そして、体に割礼を受けていなくても律法を守る者が、あなたを裁くでしょう。あなたは律法の文字を所有し、割礼を受けていながら、律法を破っているのですから。外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、肉に施された外見上の割礼が割礼ではありません。内面がユダヤ人である者こそユダヤ人であり、文字ではなく“霊”によって心に施された割礼こそ割礼なのです。その誉れは人からではなく、神から来るのです。

パウロは、律法を持たない異邦人でも律法の命じることを自然に行っていれば、自分自身が律法となり、律法の要求する事柄が心に記されていることを示していると語った。これは、ユダヤ人の「トーラー（律法）」とギリシア人の「ノモス（一般規範）」が同等のものであると言った訳で、律法を誇るユダヤ人にとっては由々しいことであった。そこで、パウロは「ユダヤ人と律法の関係」について、律法の元来の意味とパウロがキリスト信者になってからの律法・割礼の意味付けを上記のように語ったのである。

パウロは、「あなたはユダヤ人と名乗り、律法に頼り、神を誇りとし、その御心を知り、律法によって教えられて何をなすべきかをわきまえています。また、律法の中に、知識と真理が具体的に示されていると考え、盲人の案内者、闇の中にいる者の光、無知な者の導き手、未熟な者の教師である」と、ユダヤ人は律法に頼り、知識と真理が示されていることを知っていると言う。ところが、ユダヤ人は他人に教えながら自分は学ばず、律法を知っていながら律法を破り、神を侮っている。イザヤ書 52 章 5 節で「わたしの名は常に、そして絶え間なく侮られている」と書かれているように、「あなたたちのせいで、神の名は異邦人の中で汚されている。」神の民の徴として先祖から受け継いだ「割礼も、律法を守ればこそ意味があり、律法を破れば、それは割礼を受けていないのと同じです。」だから、割礼を受けていない者が、律法を実行すれば、割礼を受けていなくても、受けている者と見なされる。あなたがたは律法の文字を所有し、割礼を受けていながら、律法を破っているので、体に割礼を受けていなくても律法を守る異邦人が、あなたがたを裁くことになる。外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、肉に施された外見上の割礼が割礼ではない。「内面がユダヤ人である者こそユダヤ人であり、文字ではなく“霊”によって心に施された割礼こそ割礼なのです。」人を裁く「律法」ではなく、神の「霊」によるキリストの福音、「文字ではなく“霊”によって心に施された割礼」の誉れが神から来ると述べている。律法と割礼を持ちながら、これを守らないユダヤ人を批判している。